

中小企業融資五億円に

金融引き締めで利用盛ん

金融の引き締めや経済界全体の不況とあわせて、市商工課が窓口になり、中小企業者へ融資する柏市中小企業資金融資の申し込みが例年になく多くなっています。

この融資制度は、昭和三十三年から市内中小企業者の設備の近代化と合理化促進を図るため、市内金融機関の協力と千葉県信用保証協会の保証を得て、行っているものです。

本年度は、市が約二億円の融資基金を市内十八金融機関に預託し、その七・五倍の十五億円の融資枠を設け、融資利率は年八・五パーセント以内（一年以下は年八パーセント以内）と、県下で最も低い利率で中小企業の事業資金に貸し付けています。

大半が運転資金

年末資金として利用されているのは、運転資金（三百万円以内）が大半です。

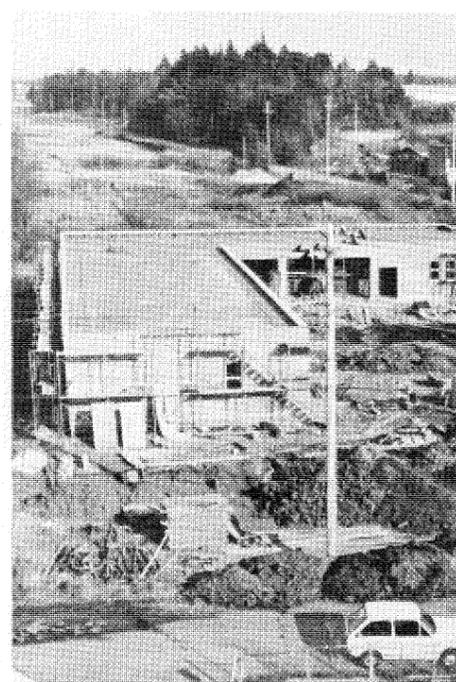
今年度の融資額は、十二月一日現在で五億四千万に達し、昨年と同じ時期の二億二千九百三十二万円の二倍以上。

また、融資取り扱件数も昨年

の百三十五件から二百三十二件へと、九十七件増えています。

こうした利用状況の増加について、担当の経済部商工課では「今年度は極めてきびしい金融情勢下にありますので、年末融資の申し込みはすでに昨年の二倍があり、今年度の融資枠の三分の一を貸し付けました。」

来年度も、引き続き増加が予想されますので、さらに内容の充実を図ってゆきたい」と話しています。



南部保育園 工事進む
来春4月開園へ

成人式は文化会館で

二千四百人余が新しい門出

昭和五十年の成人式は一月十五日（成人の日）午前十時から柏市民文化会館で行われます。

今度晴れて成人式を迎える人は昭和二十九年四月二日から昭和三十年四月一日までに生まれたかたです。なお、一月分の申し込みは一月十日までに、細かなお問い合わせは、

市内で九番目の保育園になる南部保育園（逆井一三〇五）の建設工事が来春四月開園を目指して今急ピッチで進められています。

以前からの南部地区住民の強い要望を反映し、去る六月に着工したこの保育園は、敷地面積二千五百四十二・四八平方メートルに鉄筋コンクリート平屋建て五百七十八平方メートルで、五つの保育室と医务室、給食室、職員室などがつくられ、一歳児から五歳児まで六十人の保育が行われることになっています。

旬 間 交 通 事 故			
49年11月16日～11月30日			
市 内	死者	1	37
市 外	死者	15	852
累 計	死者	16	889
市 内	死者	1	37
市 外	死者	15	852
累 計	死者	16	889

カッとする心の動きが事故のもと



東葛飾中学校の誕生

大正十一年十一月、千代田村（現柏市）が資金の一部二百万と敷地六千坪寄付の件を村会で決定すると、これにならって、田中、富勢、土、風早、小金、我孫子などの各町村もそれぞれ分担金の寄付を承諾し、地元民の熱意は整い、県当局の正式決定を待つばかりとなり、それも今や時間の問題となっていました。

やがて同年十二月の県会において、県立中学校を柏駅付近に設置するという声明が発表されました。すると、一時鳴りをひそめていた争奪運動は再び活性化し、中学校設立の前途は、多様な様相を呈してきました。しかし、大正十二年六月の臨時県会で、県立中学校の建築費十二万円の件が承認され、郡内南部地区の反対は、自然消滅せざるを得なくなりました。こうしてともかくも、千代田村に中学校が設立されることが決まり、あとは校地の問題を残すだけになりました。

地元千代田村では、実行委員九名をもって委員会を構成し、校地の選定を始めましたが、ただ単に生徒の通学に便するだけでなく、将来の地域の発展にもかわる大問題で、ここにもまた対立が生まれていました。

問題は、常盤線のどちら側にするかということで、新田原と豊四季の二カ所に選ばれてきました。この両案はどこまでも平行線をたどっていました。村ではついに県当局の意見を仰ぐことにし、大正十二年一月には地元有志数名を混えて、右二カ

元旦を走ろう

初春市民マラソン

新春を飾る柏市民元旦マラソン大会が行われます。

このマラソン大会は昭和三十七年から始まり、来年で十四回目を迎える柏市恒例の新春行事です。昨年は若者二百五十七人の市民の参加のもとに行われました。

大会は一般の部、高校の部、中学校の部、壮年の部、女子の部の五つに分かれ、午前十時に柏駅東口住友銀行前をスタートします。

市内に住んでいる人、または在学中、在勤しているかたならどなたでも参加できます。

なお上位入賞者には表彰状、完走者全員に参加賞を差し上げます。

お隣りさん

「花野井の尋常を出ておやじに見習い」かたわら野田の明浄寺（野田市野田九番地）に一年間漢学を学ぶ。「自転車もねえころだから、野田まで歩いてなあ……」漢学の響きも懐かしいが、進取の精神もあふ盛と拝見。「十八で高木村（現松戸市）へ年季奉

知られている。明治三十二年生まれの七十五歳。職業宮大工。それも亥之助さんで五代目にあたる。

「今も変ねえけど、仕事に一心を打ち込んでやる、なんとしても良心じゃ。職人はなあ、金ばあし目的になっちゃだめだ」生来とった弟子が十三人、その弟子にも「徹底してこの気持ち忘れんな、と教えた」。

一言一言に真実が迫る。

戦前と戦中は、土木と建築を兼ねた請負制度をいちはやく導

一心を打ち込んで

近郷の神社・仏閣を手がける…

宮大工の亥之助さん

「理屈ぬきで、お国のために」。もうちょっとと金の面を考えてりや、身上も残ったが職人かたががじやましたというところらしい。

このころから一方では旧田中村村会議員、消防団長、民生委員などの要職を十五年にわたり務め、地域社会に貢献。

「ただ、飯より好きな仕事に」。亥之助さんの右に出る人がいないとわかれた。

手がけた仕事「若柴の観音堂、六所神社、長覚寺、船戸の医王寺、目吹（野田市）の花光院、山崎（野田市）の鏡内寺、松戸の本土寺……」。近在の古社、名刹にその足跡がしのばれる。

「なんだって……、自分でたいてみなければなあ……」ノミを持ち、金づちを振るしぐさにけれんがみがない。

時代の流れか、今では亥之助さんのように技量をもつ大工も少なくなつた。近代建築の設計を担当する大学の研究室から



事がいい」。二十七歳の時、手がけた馬橋の能野神社工事がきっかけとなって、しだいに装飾彫刻に入っていく。「ひとめみれば助どころがわかる」天分とあいまって腕はめきめき上達。大工の技量を推し量るといわれた。速さ、正確さで近郷では亥

所の実地検分が行われ、その結果、豊四季の地に決定されたのです。

ひとたびこの決定を見ると、地元の人たちの協力と熱意は非常なもので、各地区から消防団や青年団などによる勤労奉仕隊が出され、立木の伐採、開墾など県立中学校建設の準備は、着々と進められました。ところが突然不測の事態が起こったので、大正十二年九月一日の関東大震災がこれです。県内における一切の新規事業は無期延期の決定が下され、中学校の設立も例外ではありませんでした。この緊急事態に失望落胆した関係者ではあったが、善後策をめぐらすうちに、大方の意見は、ここで断念すべきではないとあり、熱烈な請願が県当局に対して再び繰り返されました。これが実を結んで、校舎の建築は別にして、大正十三年四月から学校業務を開始することがあらためて確認されたのです。同時に千代田村の長生寺本堂を借りて仮校舎とすることも決定されました。

明けて大正十三年二月九日、文部省は、千葉県立東葛飾中学校を、千代田村豊四季乗馬谷（東葛飾校の所在地）に設立の件につき認可を下したのです。

そして同月二十八日、初代校長に吉成勤助氏が任命されました。（東葛飾高校四十年の歩みより）なお、前回の柏のむかし本文中、郡内村数二十一カ村は、二十九カ村の誤りです。で、ついで訂正致します。（市史編さん係）

